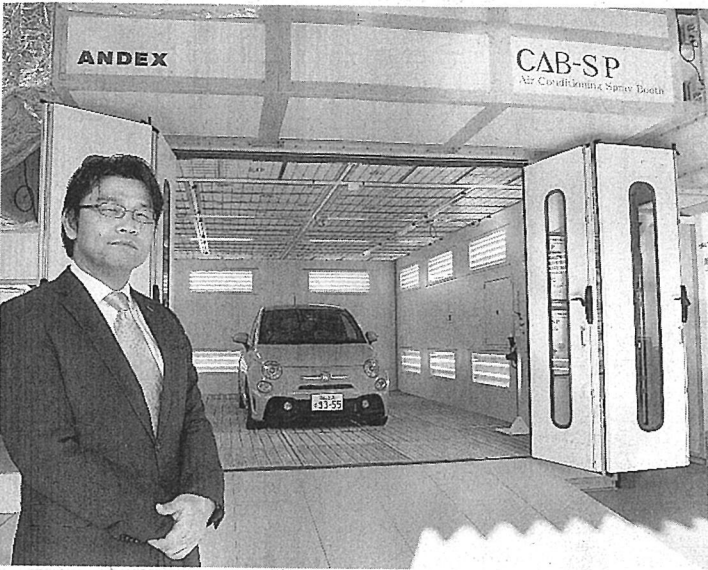


# 塗装設備 鉄道・航空にも

事故車でも、新車のように補修・塗装する技を、設備面で支える会社がある。広島県尾道市のアンデックス。車用塗装設備・乾燥装置で国内トップシェアを持つ。鉄道車両や航空機など、高品質な塗装が必要な業界にも事業の幅を広げている。

## アンデックス (広島県尾道市)

本社の敷地内にある体験型施設「ライブファクトリー」には、大型SUV(スーヴ)には、大型SUV(スーヴ)に入る自動車補修用の塗装ブースがある。塗装作業をする場所にピンポイントで冷風を送り、夏でも快適に仕事ができるようになっていく。ブース全体を空調でコントロールするのに比べ、大幅にコストを減らせるのが特徴だ。すぐ隣には、別の塗装ブ



体験型施設「ライブファクトリー」にある塗装ブース。アンデックスの吉田伸常務取締役が案内してくれた

ちゅうづぐくの

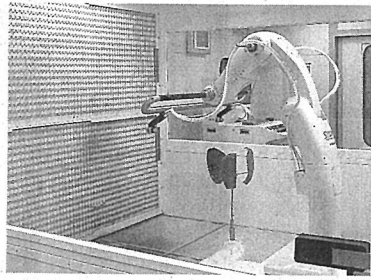
## 底力

1スがあった。温度や湿度を様々な条件で設定でき、塗装の品質を検証できる。他にもロボットが自動で塗装し、数多くのセンサーによって温度や湿度、排出ガス濃度といった作業状態を確認できる塗装ブースなども設けられている。

ライブファクトリーができたのは2016年。設備の採用を検討しているお客様

の採用を検討しているお客様

の採用を検討しているお客様



体験型施設「ライブファクトリー」にある自動塗装などができる設備。いずれも広島県尾道市東尾道

## 体験型施設で顧客が吟味

に来てもらい、塗装の仕上がりが空調の性能、省エネ効果などを体験してもらっている。吉田伸常務取締役(51)は「実際に見てもらい、塗ってもらい、検証をすることで、精度の高い設備をつくることにつながっている」と話す。

1971年創業。田辺耕造社長(76)が注目したのが、本格的な普及が始まっていた自動車だった。

同社のある尾道は瀬戸内海に面する造船業の街で、鉄工や溶接など技術者や職人が数多くいる土地柄。こうした技を自動車関連に転用した。事故車やカスタマイズ車の補修・塗装をする自動車販売店や町の修理工場をターゲットに、塗装ブースという設備を販売すれば商機があると読んだ。

吉田常務は「モーターゼーションの流れの中で、塗装需要が広がり、会社も伸びていった」と説明する。

受注のために、排気や集じん、乾燥など、塗装の品質と作業効率を高めるために必要な機能の強化を重ねて、それをすべてカタログ

商品にして販売。自動車用塗装設備・乾燥装置のメーカーとして、国内でトップシェアを持つ会社に成長していったという。

2000年ごろからは、鉄道車両や航空機、大型建機の塗装ブースなどの仕事も増えている。

新幹線やボーイング機の胴体ともなると、自動車よりも格段に大きい。そうした塗装ブースの納入実績を積み、会社の売上高の6割ほどは工業製品向けが占めるようになってきている。

国内では新幹線の延伸計画が進み、航空需要も世界的に高まるなど、まだまだこの分野は伸びしろがあると見る。

新領域にも踏み出している。社員の声をきっかけに09年、社内ベンチャーとしてスポーツサイクル事業に乗り出した。尾道は「しまなみ海道」の本州側の起点で、自転車の街だ。フレームは海外の老舗メーカーから仕入れて最終仕上げを施し、付属品のバッグに「尾道帆布」を用いるなど乗り心地や地域に根ざしたものがこころいかなる。

アンデックス 広島県尾道市に本社と二つの工場があり、本社に自転車店を併設する。従業員数は94人(2018年12月末時点)。18年6月期の売上高は50億円だった。関連会社が広島県内で携帯電話ショップの運営や障害者就労支援事業などを展開する。

社名は、英語の「and」と冒険の意味がある「expedition」を合わせた造語。吉田常務は「次なるものを求めてチャレンジを続ける」と意気込む。(近藤郷平)